

下野市立南河内小中学校

1 学校課題

基礎基本の定着を図り、児童生徒が意欲的に取り組む授業の工夫
～確かな学力と主体的に学び合う態度の育成を目指して～

2 研究計画

(1) 主題設定の理由

本校の児童生徒の実態として、学力の個人差が大きく、学習習慣を含めた学習面での基礎基本の定着が十分ではないことが挙げられる。そこで、「確かな学力と主体的に学び合う態度の育成」を目指すには、まずその土台となる基礎基本の力の強化及び児童生徒一人一人が意欲的に集中して学習に取り組めるような授業の工夫が重要であると考え、昨年度、本主題を設定し研究を進めてきた。

2年目となる今年度は、昨年度の取組を引き継ぎつつ、さらに手立てを焦点化することで、基礎基本の確実な定着を進めるとともに、児童生徒が意欲的に取り組める授業を日常的に実践するための授業の工夫を追究していくこととした。

(2) 研究の仮説

次の2点について取組を進めていけば、基礎基本の力が身に付き、主体的に学び合う児童生徒の育成につながるであろう。

- ① 基礎基本の習得・定着を図るため、授業の工夫および学習習慣の見直しと徹底を行う。
- ② 児童生徒が意欲的に取り組むため、「『分かる』『できる』授業」をキーワードとした授業の工夫と実践を積み重ねていく。

3 研究内容

本課題研究2年目にあたり、前年度の実践と反省を踏まえ、取組や手立てをより具体的に、かつ焦点化して研究を進めることが課題解決につながると考えた。

(1) 日常の学習指導を通した主題への取組

①基礎基本の定着を図るための手立て

- ア 各教科部会において、9年間を見通した教科経営計画を見直すとともに現時点における「各教科の基礎基本」を明確化し、日々の授業で意識して指導にあたるようにした。
- イ 授業の開始5分程度を「ウォームアップタイム」として位置付け、本時の授業内容にスムーズに取り組めるような活動を取り入れるようにした。
- ウ 昨年度に引き続き、児童生徒が身に付けるべき基本的学習習慣としての「学習のきまり8ヶ条」の定着・徹底を図った。特に、早い段階で「見やすく分かりやすい授業ノート作り」の習慣を身に付けることが肝要であると考え、前期課程全学年でノートの書き方の手本を児童に示して指導にあたった。

②「『分かる』『できる』授業」をキーワードとした授業の工夫と実践

- ア 授業の工夫・改善を目指すため、以下の9つの視点を教師間で共有し、日々の授業で意識して取り組むようにした。
 - ・身に付けるべき力や目指す姿を明確にした、めあて・ねらいの設定と児童生徒との共有
 - ・ねらいに応じた言語活動の工夫や充実
 - ・めあて・ねらいを基にした振り返りの工夫と充実
 - ・振り返りで児童生徒から「問い」や「次時の課題」が生まれるような授業の工夫
 - ・児童生徒の言葉や思考をつなぐコーディネーターとしての教師の支援の工夫
 - ・児童生徒の意欲が高まるような課題・教材、それらを提示するタイミングや活用の工夫
 - ・ねらいに迫るための児童生徒への多様な支援の工夫
 - ・有効な学習形態（グループ学習やペア学習など）の工夫

- ・児童生徒が意欲や必要感をもって考えようとする活動や課題の設定の工夫
- イ ICT機器を積極的に活用し、児童生徒の知識・技能の理解や定着、思考や表現の上での手助けとなるようにした。
- ウ 年間3回の「校内授業公開研修期間」を設定し、一人一回以上の授業公開を行った。上記の授業の視点を意図した公開授業を前期・後期課程に関わりなく参観し、感想や意見はGoogleのJamboardやCanvaを活用して教師間で共有した。

(2) S&Uコラボ事業研修会を通じた主題への取組

講師：宇都宮大学共同教育学部教授 人見 久城 先生

月日	学年	単元名	課題追究のための手立て等
9/19	5年	算数科「分数と小数、整数の関係」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップタイムとして既習事項を確認し、本時の学習課題にスムーズにつなげられるようにする。 ・課題提示の際に具体物を用いて実演することで児童の意欲喚起や数量感覚の把握に資する。 ・児童が自分達で整数の除法の商を分数で表す方法に気付けるよう、個人、グループ、全体と学習形態を変えながら課題に取り組ませる。
11/25	7年	保健体育科「武道『剣道』」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォームアップタイムとして前時の復習のポイントを再確認するドリル活動を行い、基礎基本の定着を図る。 ・遅延ソフトを活用し、生徒が自身の動きを確認しながら繰り返し練習することで、知識・技能の定着を図るとともに、その後のグループワークの話し合い活動がより深い知識・技能の習得につながるようにする。

4 本年度の成果と課題

昨年度よりも、さらに義務教育学校の良さとしての前期課程から後期課程までの9年間のつながりを考えながら研修を進めた。

(1) 研究の成果

- ①昨年度以上に9年間の学習のつながりを意識し、教師間の共通理解を図りながら協働体制で研究に取り組むことができた。
- ②ウォームアップタイムを意識して設定することで、児童生徒の基礎基本の定着化を図ることができた。児童生徒も「学びやすさ」を感じながら授業に取り組む様子が見られた。
- ③全教員が観点を共有して互いの授業を参観し、意見交換することで、普段の授業を行う上での手立てや工夫の選択の幅が広がった。
- ④S&Uコラボ事業研修会の中で、大学教授から「思考力を高める授業」の大切さについて助言をいただいたことで、授業の中で「いかに思考させるか」「思考の流れを大切にするか」といった新しい視点を持つことができた。
- ⑤ICT機器の活用について、様々な可能性を実感できた。

(2) 研究の課題

- ①徐々に基礎基本の定着や児童生徒の学習に対する意識に向上が感じられるようになってきたが、まだまだ十分ではなく、日常の地道な取組を継続することの大切さを改めて感じた。
- ②授業公開期間を年間3回設けたが、互いのスケジュール上「見たい」と思う授業が必ずしも見られない実情があった。さらに自由に気軽に「普段の授業」を見せ合えるような授業公開の持ち方を工夫・改善していきたい。